1. 橋梁点検の概要

1.1 黒潮町の橋梁

現在，黒潮町が管理している橋梁は全249橋です。（黒潮町橋梁調書より）

黒潮町では，道路交通，地域住民への安全・安心を確保するうえで，これまでの事後保全的対応から予防保全的対応に転換し，橋梁の長寿命化によるライフサイクルコスト縮減を図るための長寿命化修繕計画策定に向けた取り組みを行っています。

そのうち，今年度に122橋の橋梁について点検を行いました。122橋の内訳を以下に示します。

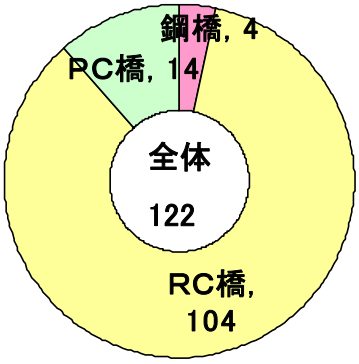


図.1-1　橋種別橋梁数

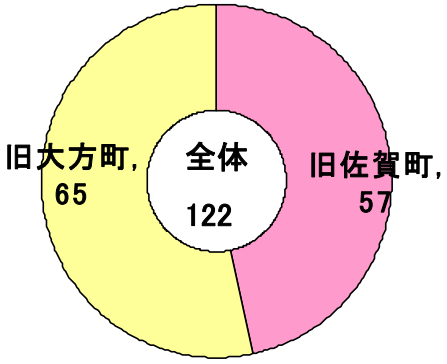


図.1-2　旧管理区分別橋梁数

1.2 橋梁の今後の推移

今年度点検を行った橋梁のうち，架設後50年以上経過した橋梁は21橋であり，全体の17%ですが，10年後には57橋で全体の47%となり，20年後には96橋の79%の橋梁が高齢化を迎えます。

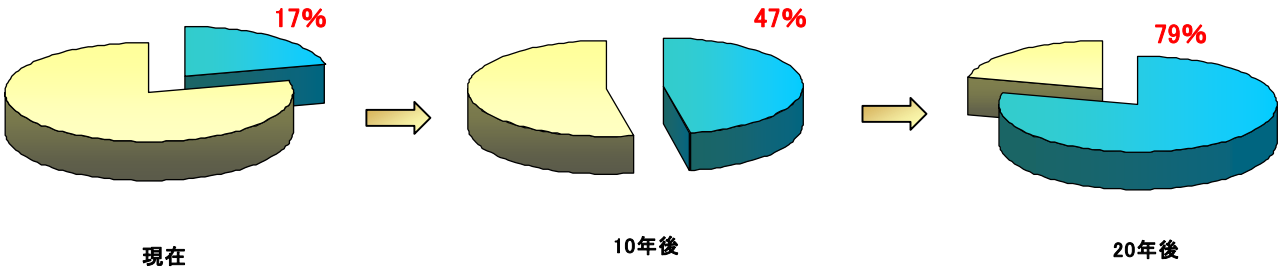


図.1-3　架設後50年以上経過する橋梁

2. 橋梁点検結果

2.1 橋梁の健全度

点検では，各橋梁の部材ごとに健全度を評価していきます。点検方法，評価方法は『道路橋に関する基礎データ収集要領(案) － 国土技術政策総合研究所』に基づき，橋梁単位で表.2-1に示す項目について評価を行い，その結果をとりまとめました。

表.2-1 調査項目

損傷の種類		評価区分
鋼部材の損傷	① 腐食	a・b・c・d・e
	② 亀裂	有・無
	③ ボルトの脱落	有・無
	④ 破断	有・無
コンクリートの損傷	⑤ ひび割れ・漏水・遊離石灰	a・b・c・d・e
	⑥ 鉄筋露出	有・無
	⑦ 抜け落ち	有・無
	⑧ 床版ひび割れ	a・b・c・d・e
	⑨ PC 定着部の異常	有・無
共通その他	⑩ 路面の凹凸	有・無
	⑪ 支承の機能障害	有・無
	⑫ 下部工の変状	有・無

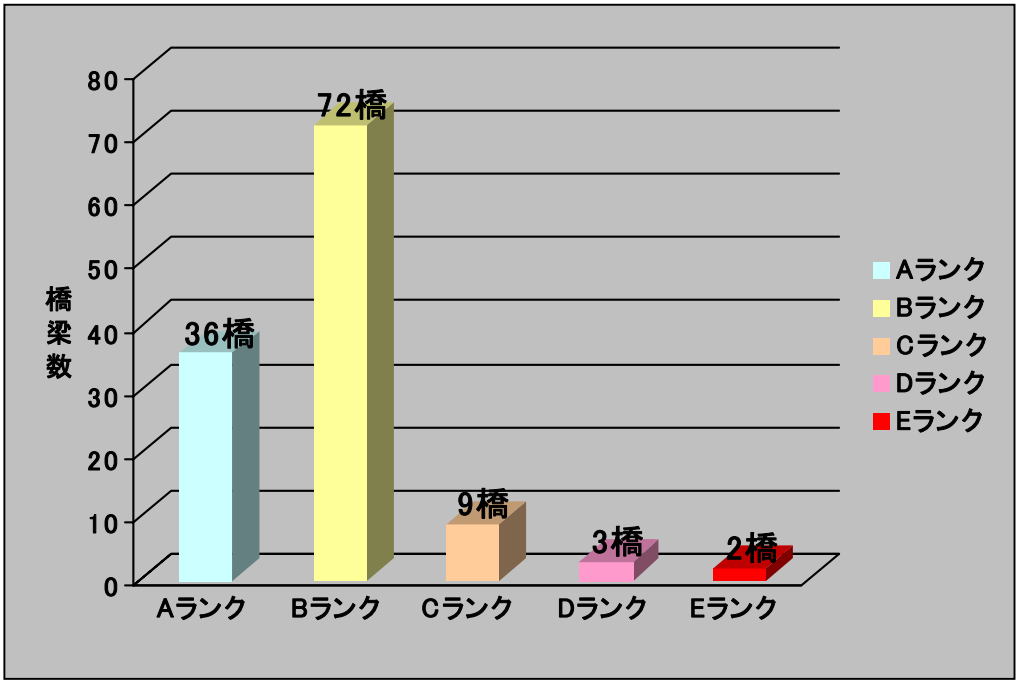
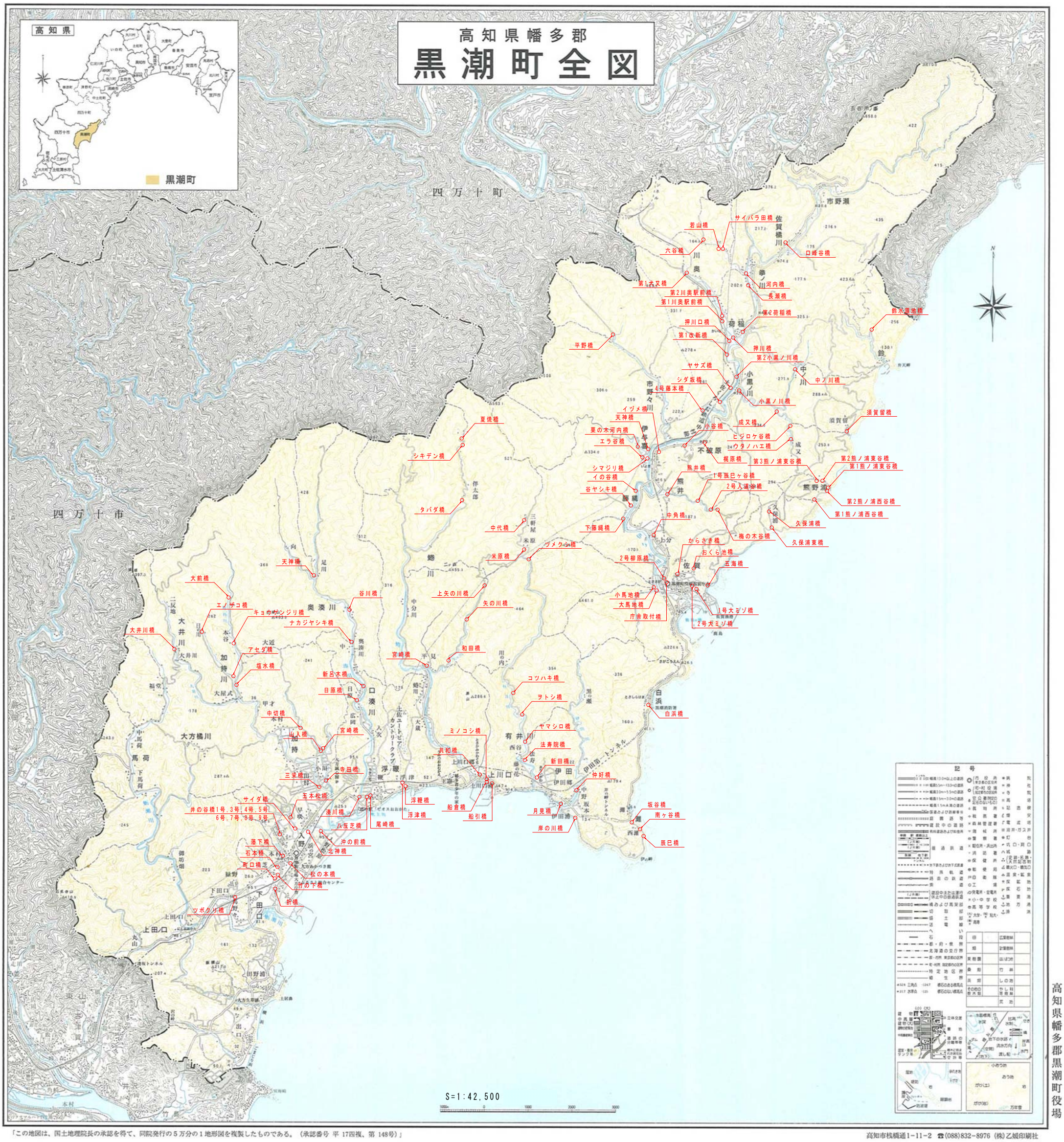


図.2-1 橋梁毎の評価

Aランク・・・損傷無し
Bランク・・・軽微な損傷(修繕の必要なし)
Cランク・・・軽微な損傷(予防保全対策が必要)
Dランク・・・相当程度な損傷(安全性・耐久性の観点から対策が必要)
Eランク・・・著しい損傷(安全性・耐久性の観点から早急な対策が必要)

高知県幡多郡
黒潮町全図



高知県幡多郡黒潮町役場

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。（承認番号 平 17四複、第 148号）」

高知市栈橋通1−11−2 ☎(088)832−8976 (株)乙姫印刷社

点　検　橋　一　覧　表

番号	橋梁名	路線名	地域区分	橋長（m）	橋種	架設年度	供用年数	調査結果						損傷判定
								桁	床版	下部工	鉄筋露出	支承	路面	
001	山入橋	西の窪線	大方	22.8	PC橋	1997	13	a	a	a	無	無	無	B
002	湊川橋	湊川線	大方	25.4	PC橋	1995	15	a	b	c	無	無	無	A
003	日原橋	湊川線	大方	23.0	PC橋	2001	9	a	a	c	無	無	無	A
004	新呂木橋	湊川線	大方	21.8	PC橋	2004	6	a	b	c	無	無	無	A
005	宮崎橋	猿飼線	大方	15.3	PC橋	1998	22	a	a	c	無	無	有	B
006	三栄橋	三島支線1号線	大方	25.2	PC橋	1991	19	a	a	c	無	無	有	B
007	寺田橋	三島支線1号線	大方	21.7	PC橋	1994	16	a	a	a	無	無	有	B
008	新田橋	新田線	大方	20.4	鋼橋	不明	－	c	b	c	無	無	無	C
009	法寿院橋	ヒジリノモト線	大方	18.9	RC橋	不明	－	c	a	a	無	無	無	C
010	月見橋	井の岬線	大方	13.6	PC橋	1969	41	a	c	c	無	無	有	B
011	岸の川橋	井の岬線	大方	2.9	RC橋	1940	70	c	a	c	無	無	無	B
012	辰巳橋	井の岬線	大方	2.4	RC橋	1940	70	c	a	c	有	無	無	D
013	南ヶ谷橋	井の岬線	大方	2.7	RC橋	1968	42	c	a	c	無	無	無	B
014	坂谷橋	井の岬線	大方	3.1	RC橋	1940	70	c	a	c	無	無	無	B
015	仲好橋	沢小畑線	大方	13.3	PC橋	1980	30	c	a	b	無	無	無	A
016	ヤマシロ橋	有井川線	大方	3.0	RC橋	1953	57	c	a	c	無	無	無	A
017	ヲトシ橋	有井川線	大方	3.3	RC橋	1954	56	c	a	c	無	無	有	B
018	コツハキ橋	有井川線	大方	4.2	RC橋	1966	44	c	a	c	無	無	有	B
019	ツメクシ橋	有井川線	大方	3.2	RC橋	1968	42	c	a	c	無	無	無	A
020	中代橋	米原西線	大方	8.5	RC橋	1973	37	b	a	c	無	無	無	A
021	船倉橋	上川口線	大方	8.1	PC橋	1936	74	c	b	c	無	無	有	C
022	船引橋	上川口線	大方	4.0	RC橋	1940	70	c	a	c	無	無	無	A
023	共和橋	為の川線	大方	6.4	RC橋	1959	51	b	a	b	無	無	無	A
024	ミノコシ橋	上川口西前線	大方	6.5	RC橋	1963	47	c	a	c	無	無	無	A
025	タバダ橋	蜷川線	大方	4.1	RC橋	1957	53	c	a	c	無	無	有	B
026	シキデン橋	蜷川線	大方	4.6	RC橋	1958	52	c	a	c	無	無	有	B
027	夏焼橋	蜷川線	大方	2.5	RC橋	1958	52	a	a	a	無	無	無	A
028	宮崎橋	矢野川線	大方	3.3	RC橋	1975	35	c	a	c	無	無	有	B
029	和田橋	矢野川線	大方	3.8	RC橋	1975	35	c	a	c	無	無	有	B
030	矢の川橋	矢野川線	大方	11.4	鋼橋	1980	30	c	c	c	無	無	有	B
031	上矢の川橋	矢野川線	大方	8.0	RC橋	1972	38	c	a	c	無	無	有	B
032	米原橋	矢野川線	大方	7.0	RC橋	1969	41	a	a	c	無	無	有	B
033	浮鞭橋	浮津線	大方	7.3	RC橋	1935	75	c	a	c	無	無	無	A
034	八反芝橋	鞭線	大方	2.6	RC橋	1973	37	c	a	c	無	無	有	B
035	尾崎橋	浮鞭線	大方	4.7	RC橋	2000	10	c	a	c	無	ー	有	B
036	白浜橋	白浜線	佐賀	4.7	RC橋	1979	31	c	a	c	無	無	無	B
037	大馬地橋	馬地部落中線	佐賀	9.4	RC橋	1962	48	a	a	c	無	無	無	A
038	小馬地橋	馬地部落中線	佐賀	7.5	RC橋	1965	45	c	a	c	無	無	有	B
039	五海橋	海雲寺線	佐賀	5.1	RC橋	1964	46	c	a	c	無	無	有	B
040	2号大ミゾ橋	会所新田口線	佐賀	2.5	RC橋	1997	13	a	a	a	無	ー	有	B
041	からさき橋	芝明神線	佐賀	3.0	RC橋	1985	25	c	a	c	無	無	有	C
042	1号大ミゾ橋	芝明神線	佐賀	3.0	RC橋	1985	25	a	a	a	無	ー	無	A
043	おくら池橋	佐賀おくら線	佐賀	2.5	RC橋	1960	50	c	a	c	無	無	有	B
044	2号柳原橋	柳原線	佐賀	3.7	RC橋	1988	22	a	a	c	無	無	有	B
045	庁舎取付橋	庁舎取付線	佐賀	8.2	RC橋	1965	45	c	a	c	有	無	有	D
046	中角橋	中角線	佐賀	6.0	RC橋	1970	40	c	a	d	無	無	有	C
047	下藤縄橋	中角藤縄線	佐賀	4.5	RC橋	1970	40	c	a	c	無	ー	無	B
048	熊井橋	中角熊井線	佐賀	5.8	RC橋	1969	41	c	a	c	無	無	有	B
049	谷ヤシキ橋	中角藤縄線	佐賀	6.1	RC橋	1988	22	b	a	c	無	無	無	A
050	イの谷橋	藤縄伊与喜線	佐賀	2.0	RC橋	1986	24	a	a	c	無	ー	無	A
051	エラ谷橋	藤縄伊与喜線	佐賀	3.4	RC橋	1987	23	a	a	a	無	無	有	B
052	1号辰巳ヶ谷橋	熊井線	佐賀	3.4	RC橋	1976	34	c	a	c	無	無	無	B
053	2号入道谷橋	熊井線	佐賀	4.0	RC橋	1977	33	c	a	c	無	無	無	B
054	梅の木谷橋	熊井線	佐賀	4.1	RC橋	1965	45	c	a	b	無	無	有	B
055	シマジリ橋	伊与喜ツキダシ線	佐賀	6.0	RC橋	1965	45	c	a	c	有	無	有	D
056	天神橋	伊与喜市野々川線	佐賀	9.5	RC橋	1981	29	a	a	c	無	無	有	B
057	イヅメ橋	古城イヅメ線	佐賀	4.9	RC橋	1958	52	c	a	c	無	無	有	B
058	栗の木河内橋	伊与喜栗の木河内線	佐賀	10.0	RC橋	1955	55	c	a	c	無	無	無	B
059	平野橋	市野々川打井川線	佐賀	3.8	RC橋	1989	21	c	a	c	無	無	有	B
060	4号藤本橋	不破原藤本線	佐賀	3.8	RC橋	1983	27	a	a	c	無	無	有	B
061	小谷橋	不破原小谷口線	佐賀	2.5	RC橋	1972	38	c	a	c	無	無	有	B

番号	橋梁名	路線名	地域区分	橋長（m）	橋種	架設年度	供用年数	調査結果						損傷判定
								桁	床版	下部工	鉄筋露出	支承	路面	
062	梶原橋	三反切線	佐賀	3.4	RC橋	1971	39	a	a	c	無	無	無	A
063	久保浦橋	久保浦線	佐賀	3.6	RC橋	1979	31	a	a	b	無	無	無	A
064	久保浦東橋	久保浦線	佐賀	7.1	RC橋	1979	31	c	a	c	無	無	無	B
065	第1熊ノ浦西谷橋	熊ノ浦海岸線	佐賀	3.6	RC橋	1982	28	c	a	c	無	無	有	B
066	第1熊ノ浦東谷橋	熊ノ浦海岸線	佐賀	4.0	RC橋	1982	28	c	a	c	無	無	有	B
067	浮津橋	浮鞭線	大方	6.2	RC橋	1956	54	a	a	a	無	無	有	B
068	谷川橋	湊川線	大方	6.0	RC橋	1966	44	c	a	c	無	無	無	C
069	ナカジヤシキ橋	大谷線	大方	5.2	RC橋	1964	46	c	a	a	無	無	有	B
070	天神橋	向線	大方	7.9	RC橋	1964	46	a	a	c	無	無	無	A
071	中切橋	加持小川線	大方	8.2	RC橋	1963	47	a	a	a	無	無	有	B
072	塩水橋	本谷線	大方	2.9	RC橋	1967	43	c	a	c	無	ー	無	B
073	大前橋	大前線	大方	10.8	RC橋	1964	46	c	a	c	無	無	無	B
074	アセダ橋	本谷西線	大方	4.5	RC橋	1964	46	b	a	c	無	無	無	A
075	キョウゲンジリ橋	本谷西線	大方	8.3	PC橋	1965	45	c	a	c	無	無	無	B
076	エノザコ橋	日の川線	大方	4.0	RC橋	1976	34	c	a	a	無	無	無	A
077	大井川橋	大井川馬荷線	大方	9.2	RC橋	1961	49	b	b	b	無	無	有	B
078	サイダ橋	風深支1号線	大方	12.5	鋼橋	1980	30	c	b	a	無	無	有	B
079	五本松橋	柳の川線	大方	8.4	鋼橋	1980	30	c	b	a	無	無	有	B
080	沖の前橋	早咲松原線	大方	2.6	RC橋	1961	49	c	a	b	無	ー	有	B
081	北神橋	早咲田の口線	大方	2.8	RC橋	1969	41	c	a	a	無	無	無	B
082	折橋	早咲田の口線	大方	4.9	RC橋	1961	49	c	a	c	無	ー	無	B
083	播下橋	播下線	大方	3.6	RC橋	1977	33	c	a	c	無	ー	無	B
084	井の谷橋1号	播下線	大方	2.3	RC橋	1977	33	a	a	a	無	無	有	B
085	井の谷橋3号	播下支2号線	大方	2.4	RC橋	1977	33	a	a	a	無	無	有	B
086	井の谷橋4号	播下支2号線	大方	2.3	RC橋	1977	33	c	a	a	無	無	有	B
087	井の谷橋5号	播下支3号線	大方	2.4	RC橋	1977	33	c	a	a	無	無	有	B
088	井の谷橋6号	播下支3号線	大方	2.2	RC橋	1977	33	a	a	a	無	無	無	A
089	井の谷橋7号	播下支4号線	大方	2.4	RC橋	1977	33	c	a	a	無	無	有	B
090	井の谷橋8号	播下支4号線	大方	2.4	RC橋	1977	33	a	a	a	無	無	有	B
091	井の谷橋9号	播下支8号線	大方	2.4	RC橋	1977	33	c	a	a	無	無	有	B
092	松の本橋	松原線	大方	3.8	RC橋	1976	34	c	a	c	無	ー	無	B
093	町口橋	本村田の口線	大方	5.2	RC橋	2000	10	b	a	c	無	無	無	B
094	石本橋	本村芝線	大方	3.3	RC橋	1973	37	c	a	c	無	ー	無	B
095	竹の下橋	芝両町線	大方	3.0	RC橋	1972	38	c	a	c	無	ー	無	B
096	第2熊ノ浦東谷橋	熊ノ浦海岸線	佐賀	2.7	RC橋	1985	25	c	a	c	無	無	有	B
097	第3熊ノ浦東谷橋	熊ノ浦海岸線	佐賀	2.5	RC橋	1985	25	b	a	a	無	無	無	A
098	第2熊ノ浦西谷橋	熊ノ浦森本線	佐賀	4.9	RC橋	1973	37	a	a	c	無	無	無	A
099	成又橋	成又熊ノ浦線	佐賀	5.8	RC橋	2004	6	a	a	a	無	ー	無	A
100	ヒジロケ橋	成又熊ノ浦線	佐賀	3.2	RC橋	1985	25	b	a	c	無	無	無	A
101	ウタノハエ橋	成又熊ノ浦線	佐賀	2.2	RC橋	1986	24	b	a	c	無	無	無	A
102	須賀留橋	成又スガル線	佐賀	6.4	RC橋	1967	43	b	a	a	無	無	有	B
103	シダ坂橋	藤本小黒ノ川線	佐賀	3.7	RC橋	1979	31	c	a	a	無	無	有	B
104	ヤサズ橋	藤本小黒ノ川線	佐賀	2.9	RC橋	1981	29	c	a	a	無	無	有	B
105	小黒ノ川橋	小黒ノ川ミゾノ下線	佐賀	11.6	RC橋	1955	55	c	a	c	有	無	無	E
106	中ノ川橋	小黒ノ川中ノ川線	佐賀	4.3	RC橋	1983	27	b	a	a	無	無	無	A
107	第2小黒ノ川橋	小黒ノ川荷稲線	佐賀	4.2	RC橋	1975	35	c	a	a	無	無	有	B
108	第1新改橋	小黒ノ川荷稲線	佐賀	3.0	RC橋	1975	35	b	a	c	無	無	無	A
109	押川口橋	小黒ノ川荷稲線	佐賀	5.8	RC橋	1973	37	a	a	a	無	無	無	A
110	押川橋	荷稲駅前西線	佐賀	12.2	RC橋	1962	48	c	b	a	有	無	有	E
111	第1川奥駅前橋	荷稲駅前東線	佐賀	7.3	RC橋	1965	45	b	a	b	無	無	無	A
112	第2川奥駅前橋	荷稲駅前東線	佐賀	7.1	RC橋	1964	46	b	a	c	無	無	無	A
113	第1犬又橋	川奥イヌ又線	佐賀	9.4	PC橋	1951	59	b	a	b	無	無	無	A
114	河内橋	拳ノ川若山線	佐賀	8.4	RC橋	1961	49	c	a	c	無	無	有	B
115	サイバラ田橋	拳ノ川若山線	佐賀	4.1	RC橋	1961	49	c	a	a	無	無	有	B
116	若山橋	拳ノ川若山線	佐賀	6.4	RC橋	1963	47	b	a	b	無	無	無	A
117	六谷橋	拳ノ川若山線	佐賀	5.3	RC橋	1966	44	b	a	b	無	無	無	A
118	口峰谷橋	橘川北線	佐賀	4.9	RC橋	1951	59	a	a	c	無	無	無	A
119	第2荷稲橋	荷稲拳ノ川線	佐賀	3.2	RC橋	1975	35	c	a	a	無	無	有	C
120	長瀬橋	荷稲拳ノ川線	佐賀	4.7	RC橋	1975	35	c	a	c	無	無	有	C
121	鈴水源地橋	荷稲鈴線	佐賀	4.9	RC橋	1979	31	c	a	c	無	無	無	C
122	ツボクリ橋	下田の口中央線	大方	4.1	RC橋	2000	10	a	a	a	無	無	有	B

調　査　方　法

1. 目的

道路橋に関する基礎データ収集要領(案)は、著しい劣化の有無など道路橋の健全度に着目した調査時点の状況についての概略をできるだけ簡易に把握することを目的とする。

2. 適用の範囲

道路橋に関する基礎データ収集要領(案)は、できるだけ簡易に道路橋の健全度に関して概略が把握できることを意図し、一般的な構造形式の道路橋において、主要な部材のみに着目し、かつ損傷発生頻度が高い箇所や同じ部材の中でも劣化が先行的に進行する箇所のみに着目するなどにより省力化を図ったものである。

3. 調査項目

道路橋の損傷を把握する調査項目は、下記の12項目とする。

損傷の種類		評価方法
鋼部材の損傷	①腐食	a～e
	②亀裂	有無
	③ボルトの脱落	有無
	④破断	有無
コンクリートの損傷	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	a～e
	⑥鉄筋露出	有無
	⑦抜け落ち	有無
	⑧床版ひびわれ	a～e
	⑨PC定着部の異常	有無
共通	⑩路面の凹凸	有無
	⑪支承の機能障害	有無
	⑫下部工の変状	有無

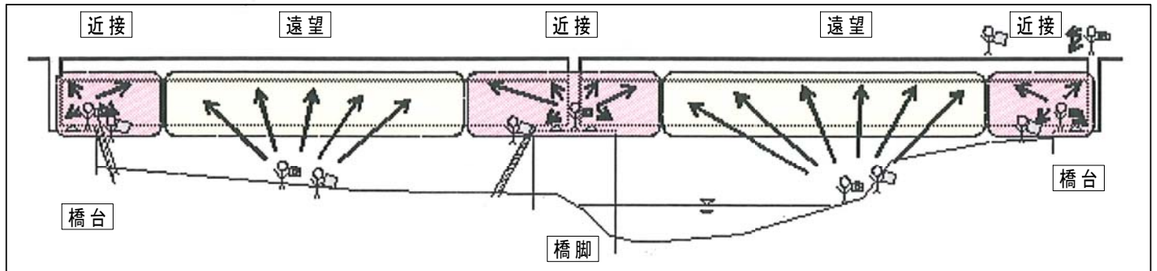
4. 調査結果の記録

調査結果は、径間ごとに損傷の位置が特定できるように記録する。損傷の状況の記入にあたっては、調査の手引きを参照する。また、記録が困難な特殊形式の橋梁の場合には、専門家や最寄りの国土交通省や都道府県の出先の事務所に相談し、橋梁の構造に応じて適切に部材区分と部材番号等を設定し記録する。

5. 調査方法

調査項目の損傷の評価(状況把握)にあたっては「損傷評価の手引き」を活用し、評価する。
なお、調査にあたっては以下に留意する。
①目視によることを基本とする。
②桁端部や支承部およびその近傍の部材は、直近の橋台や橋脚からできるだけ近接して調査する。
③近接が著しく困難な調査箇所は、橋梁点検車を使用して詳細に調査する。
なお、道路橋に関する基礎データ収集要領(案)による調査において、火炎痕などの特異な変状や供用の安全性や第三者が懸念されるような異常を確認した場合には、別途、点検や詳細調査が実施されるよう適切な対応を行うことが必要である。

6. 現地における近接・遠望調査例



【現地における近接・遠望調査例の解説（調査概要）】

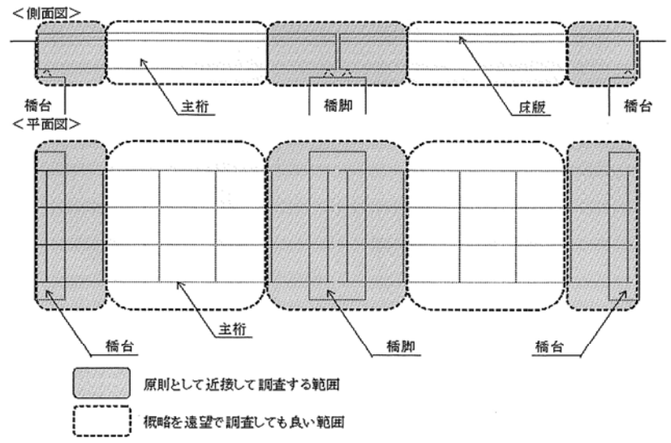
○近接による調査(1)
1. 支承位置に登り(梯子使用程度)、⑪支承の機能障害を近接調査する。
2. 同時に、主桁端部周辺の近接調査を行う。
鋼橋：主桁・端対傾構の①腐食、②亀裂、⑧床版ひびわれ、他。
コンクリート橋：主桁・端対傾構の⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰、⑧床版ひびわれ、他。

○近接による調査(2)
1. 道路上から、⑩路面の凹凸を近接調査する。

○遠望による調査
1. 遠望(例えば、橋の下の河原、堤防の上)から、双眼鏡程度を用いて、目視調査する。なお、近接可能な箇所(河原の下部工の下側、検査路からから見える床版下面、等)については、近接による調査が望ましい。

7. 橋梁の調査範囲と部材の名称

道路橋基礎データに関する基礎データ収集要領(案)による調査の範囲の概念を示す。



鋼橋の近接して調査する範囲の概念図

評価方法（その1）

1. 損傷の評価

①腐食

（1）調査箇所
桁端部から主たる部材（主げた、横構、端対傾構、端横げた等）の、腐食状況を確認する。ここで、桁端部の範囲は主げたの1パネル（桁端部から次の対傾構や横げたなどで区切られた範囲）か、桁端部より5m程度までの区間としてよい。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安			区分
錆の有無	錆の深さ	錆の広がり	
なし	－	－	a
あり	表面のみ	局部的	b
		広範囲	c
	板厚減少、鋼材表面の著しい膨張	局部的	d
		広範囲	e

耐候性鋼材の橋梁については、次の区分によるものとする。

評価の目安		区分
錆の状態	錆の広がり	
一様な錆が発生している	－	a
うろこ状の錆が発生している	－	c
層状剥離、板厚減少等が発生している	局部的	d
	広範囲	e

②亀裂

（1）調査箇所
桁端部への近接によって、視認できる範囲の全ての部材の亀裂の有無を確認する。
支点部近傍の部材溶接部やゲルバー桁の架け違い部の亀裂は橋の健全性に大きく影響する場合があるため、調査にあたっては注意が必要である。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし 塗膜割れ程度（長さが短く、錆が出ていない）	無
明らかな亀裂を生じている 亀裂の疑いのある塗膜割れが生じている（長さが長く、錆が出ている）	有

③ボルトの脱落

（1）調査箇所
橋梁の全ての主たる部材について、ボルトの脱落の有無を確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	無
ボルトの脱落がある（本数の多寡によらない）	有

④破断

（1）調査箇所
橋梁の全ての主たる部材について、破断を確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

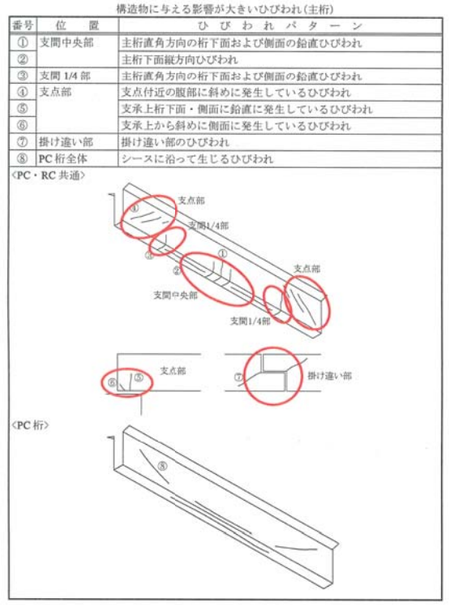
評価の目安	区分
損傷なし	無
破断している（部材がつながっている場合は亀裂）	有

⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰

（1）調査箇所
主桁、下部工等の主たる部材について、外観の状態を確認する。
なお、評価にあたっては、以下の「構造物に与える影響が大きいひびわれ」についてはそれ以外と区別して評価する。

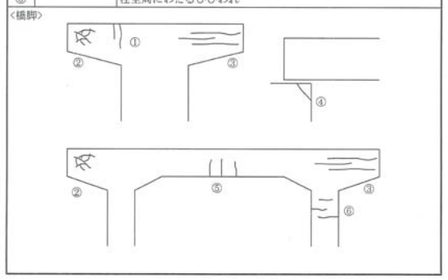
構造物に与える影響が大きいひびわれ（主桁）

番号	位置	ひびわれパターン
①	支間中央部	主桁直角方向の桁下面および側面の鉛直ひびわれ
②		主桁下面縦方向ひびわれ
③	支間 1/4 部	主桁直角方向の桁下面および側面の鉛直ひびわれ
④	支点部	支点付近の腹部に斜めに発生しているひびわれ
⑤		支承上桁下面・側面に鉛直に発生しているひびわれ
⑥		支承上から斜めに側面に発生しているひびわれ
⑦	掛け違い部	掛け違い部のひびわれ
⑧	PC 桁全体	シースに沿って生じるひびわれ



構造物に与える影響が大きいひびわれ（橋脚）

番号	位置	ひびわれパターン
①	T 型橋脚	張り出し部の付け根側のひびわれ
②	共通	広範囲に及ぶ多数のひびわれ
③		軸方向に複数の大きなひびわれ
④	支承下部	支承下面付近のひびわれ
⑤	ラーメン橋脚	はり中央部下側のひびわれ
⑥		柱全周にわたるひびわれ



（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安				区分
ひびわれの有無	ひびわれ位置	ひびわれ幅※	漏水・遊離石灰	
なし	－	－	－	a
あり	(1)に示す「構造物に及ぼす影響が大きいひびわれ」	0.2mm未満（小）	有無を問わない	c
		0.2mm以上（大）	ひびわれのみ	c
			漏水のみ	d
			軽微な遊離石灰	d
			著しい遊離石灰・錆汁	e
	上記以外（影響が小さい）	0.2mm未満（小）	有無を問わない	b
		0.2mm以上（大）	ひびわれのみ	b
			漏水のみ	c
			軽微な遊離石灰	c
			著しい遊離石灰・錆汁	d

※　ひびわれ幅の評価にあたっては近接が容易でないなどにより計測を行えないものについては、遠望から容易に分かるひびわれを、ひびわれ幅が大きいと判断する。

評価方法（その2）

⑥鉄筋露出

（1）調査箇所
橋梁の全ての主たる部材について、鉄筋露出を確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安			区分
鉄筋露出の有無	腐食の広がり	腐食の程度	
なし	－	－	無
あり	部分的	表面のみ	
		鋼材断面の減少、鋼材の著しい膨張	
	広範囲	表面のみ	
		鋼材断面の減少、鋼材の著しい膨張	有

⑦抜け落ち

（1）調査箇所
橋梁の全ての床版について、抜け落ちの有無を確認する。

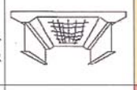
（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	無
コンクリート塊の抜け落ちがある	有

⑧床版ひびわれ

（1）調査箇所
桁端部から2パネルについて、近接目視にて確認する。
橋軸方向に横げたや横構など床版を区分する適当な部材がない場合や、その距離が著しく離れている場合には、支点から10m程度の範囲を調査する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評　価　の　目　安	概　念　図	区分
ひびわれは発生していないか、幅の小さい(0.2mm未満)ひびわれで、ひびわれ間隔は 1.0m 程度と非常に離れている状態。 漏水跡・遊離石灰は確認できない		a
幅の小さい(0.2mm 未満)一方向のひびわれが主であり、ひびわれ間隔が 0.5m 程度と比較的大きい状態。 漏水跡・遊離石灰は確認できない		b
0.2mm 程度の格子状のひびわれが発生している状態で漏水跡・遊離石灰は確認できない。 または、一方向ひびわれであるが、漏水跡・遊離石灰が確認できる状態		c
0.2mm 程度の格子状のひびわれが発生しており漏水跡・遊離石灰は確認できる状態。 または、0.2mm 以上のひびわれが目立ち、部分的な角落ちが見られるが漏水跡・遊離石灰は確認できない状態		d
連続的な角落ちが見られ、漏水跡・遊離石灰が確認できる状態		e

※　ひびわれ幅や間隔は必ずしも計測を要しない。遠望から容易に分かるひびわれについて、0.2mn 以上のひびわれとする。

⑨PC定着部の異常

（1）調査箇所
橋梁の全てのPC鋼材定着部について、確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	無
PCケーブル定着部の腐食(程度によらない) PCケーブルの損傷	有

⑩路面の凹凸

（1）調査箇所
橋梁の全ての路面の凹凸や段差について、確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし 20mm程度未満(走行に支障がない程度)の段差がある	無
20mm程度以上(走行に支障があり明らかに分かる程度)の段差がある	有

⑪支承の機能障害

（1）調査箇所
橋梁の全ての支承について、確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安	区分
損傷なし	無
支承の機能が損なわれている 支承の機能が著しく阻害されている	有

⑫下部工の変状

（1）調査箇所
橋梁の全ての下部工について、沈下・移動・傾斜・洗掘を確認する。

（2）損傷程度の評価区分
確認の結果は、次の区分によるものとする。

評価の目安		区分
沈下・移動・傾斜	洗掘	
沈下・移動・傾斜のいずれもない	洗掘はない	無
	軽微な洗掘がある	無
	著しく洗掘されている	有
沈下・移動・傾斜のいずれかが有る	洗掘はない	有
	軽微な洗掘がある	有
	著しく洗掘されている	有